

少年の主張大会を開催しました!!

7月4日、いきいき広場ホールにて「第32回少年の主張大会」が盛大に開催されました。
この大会では、市内小・中学校と高等学校の代表が発表を行い、約180人の来場がありました。

高浜小学校6年 伊藤 結哉さん 「福祉って何？」

福祉とは人と人がお互いに大切に思い、助け合っていくことだと思いました。高齢者や障がい者などといった枠をなくし、理解し合い、認め合うことが、福祉の第一歩となるはずです。



吉浜小学校6年 廣瀬 乙愛さん 「絆でつながる家族」

家族になるということは、強い絆で結ばれるということなのかなと考えるようになりました。時にぶつかることもあるけれど、大切に育てられ、強い絆で結ばれた家族は「宝物」です。



高浜中学校3年 鈴木 菜摘さん 「『ありのまま』って何だろう」

私は人と違うことが怖くて人に合わせていました。しかし考え方、感じ方の違いには驚きやおもしろさが詰まっていることに気づき、ありのままが楽しいと思えるようになりました。



高取小学校6年 神谷 菜桜さん 「夢は叶える」

私が入院していたときに、私のために看病したり話し相手になってくれたりする看護師さんに憧れ、看護師になりたいと思いました。その夢を叶えるために人にやさしくすること、勉強することをがんばっていききたいです。



南中学校3年 黒木 美沙さん 「幸せの見つけ方」

幼いころの体験から、周りの人の温かさややさしさに支えられて元気にすごせていることが幸せであると感じるようになりました。皆さんも身近な人との何気ない関わりの中に幸せがかならず見つかるはずですよ。



港小学校6年 杉本 朋香さん 「『あたりまえ』の大切さ」

東日本大震災のあった地を訪れ、あたりまえな毎日がとても大切だということに気づきました。あたりまえにできることに感謝し、みんなにもあたりまえの大切さを知ってもらいたいです。



高浜高校3年 杉浦 誠実さん 「ハンドボールとの出会い」

部長になることで、リーダーシップの難しさと仲間の大切さを学びました。粘り強く行動することや努力すれば報われることに気づきました。この経験を生かし、どんなときでも前向きに進んでいきます。



翼小学校6年 加藤 里菜さん 「本当に『つながる』ということ」

身近な人の苦い経験から、つながりについて考えるようになりました。人と人とのつながりを作るのは、メールやLINEではなく、目を見て、心を込めて、直接伝え合う会話なのだと思います。



どの発表も子どもたちの想いであふれ、感動的で大人も考えさせられる内容でした。発表者だけではなく、鈴木亜果莉さん(高浜中学校3年)、荒川世奈さんも(南中学校3年)、丁寧ではっきりとした、すばらしい司会を務めました。今回発表された作文は、市公式ホームページで公開します。

